

多くの歌碑、句碑などが点在。小野小町の和歌を背景に海までの風景を自撮りできるスポットも設けられている

見るめかる
あまのゆき、の
淡雪に
なごこの國も
すがすなくに
小野小町

NO.10

[パーク アンド パーク]

PARK & PARK

公園&駐車場

句碑巡り、一句詠む

「詩歌の古道」で風流を

白河関(白河市)、鼠ヶ関(山形県)と並ぶ、奥州三古関として知られる勿来関。

本誌二月号で、勿来の関の場所論争に関する寄稿が掲載されたが、市民としてのひびき目を抜きにしても、勿来の関「いわき説を推したい」。

同公園の案内図によると、詩歌の古道を中心に、歌碑が九カ所、詩碑が二カ所、句碑が三カ所設けられている。

正岡子規、高浜虚子といった多くの俳人を生んだ愛媛県松山市が、「俳句」と「ハイキングの hike」をかけた、松山は「いく」という町歩き企画を立ち上げ、好評を得ている。散歩しながら俳句を詠む行動を「吟行」と呼ぶそうだが、今回は新しい試みの「勿来の関はいく」に挑戦してみた。

まず最初は吹風殿前の駐車場東側、休憩スペースの手前にある、「角川源義の句碑」。

源義は、角川書店の創立者として知られる。国文学者・俳人でもあり、多くの句を残している。

源義の句碑が伸びた草に遮られてなかなか見つからず、行ったり来たり。地図が大ざっぱだと探すのも一苦労だ。

ようやく見つけた句碑には「ここすぎて 蝦夷の青嶺ぞ 海光る」と、「勿来すぎ 身ほとり秋の 濤の声」の二句。昭和四十一(一九六六)年に茨城を経て、勿来の関を訪れた際に詠まれた。

三つの句を参考に

続いて、勿来の関文学歴史館を過ぎて、詩歌の古道に入つてすぐ左手に「松尾芭蕉の句碑」がある。刻まれているのは「風流の はしめや

おくの田植え歌」。芭蕉は勿来の関を訪れていないので、白河の関にちなんだ句だ。



吹風殿手前に大型から普通車用まで整備された駐車スペースと、桜の広場、源義家像近くにも駐車場

PICK UP SPOT

勿来の関公園

吟行・はいく

最後の一つは、詩歌の古道の北東に永野修身の句碑。

永野は海軍の三頭職といわれた、連合艦隊司令長官、海軍大臣、軍令部総長の三職全てを経験した唯一の軍人。戦後、A級戦犯として巣鴨プリズンに収容され、裁判中に肺炎で死去した。

後世の人物評に賛否ある永野の句が同公園にある理由は、昭和九（一九三四）年に江名・永崎海岸を訪れた際、帰途の折に同地を訪れて、「山櫻 われも日本の 武士にして」と詠んだことから。

三つの句碑を読み、詩歌の古道を出る。あずまやで休憩しつつ、句の構成を考えた。「ひに惑う 関の古道や 秋の蝶」

句「碑」を探して迷ったこと、夏の「日」差しをよけるように蝶がひらひら舞っていたことをかけて詠んだ。

吹風殿前で、筆ペンを使って短冊にしたためると、気分はさながら松尾芭蕉か。桜の時期になったら、野だてと合わせて、俳句ハイクとしゃべってみたい。

(和)

ひと足延ばして行ってみよう!



LET'S GO

勿来温泉 関の湯

いわき市勿来町関田須賀1-4。太平洋を見渡せる絶景露天風呂と多種多様な内湯が楽しめる。宿泊にも対応。テークアウトの総菜、各地の名産品などを土産に。電話＝0246-65-1126



INFORMATION

【勿来の関公園の概要】 いわき市勿来町関田長沢地内。桜の名所としても知られる。勿来関文学歴史館、吹風殿などの施設も充実。子ども向けの遊具、遊歩道の散策も人気



食の安全・安心。さらに、おいしい
シーフードケーキ

◆◆◆「秋の夜長」お酒と共に◆◆◆

創作かまぼこ

かねまん 本舗

<https://www.kaneman.net/>
☎ 0120-17-3360

■ 電話・FAX・インターネットでも注文承ります。
■ 本店営業時間AM8:00~PM4:00(年中無休)

■ 本店
福島県いわき市平下高久字下原83
TEL.0246-39-3360・FAX.39-3754

■ いわき・ら・ら・ミュウ店
福島県いわき市小名浜字辰巳町43-1
TEL&FAX.0246-53-7125

皆様の幸運を招く
恵比寿様 大黒様



恵比寿様



大黒様

■ オンラインショップ
www.kaneman.net
インターネットでのご注文はこちら▶

